第 415 回定例研究報告会　　2014 年 7 月 11 日

「天然ガス情勢の展望」

＜ 報 告 要 旨 ＞

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
戦略研究ユニット 国際情勢分析第 1 グループマネージャー　久谷 一朗

2015 年までのガス価格の展望

1. 2013 年の日本の LNG 輸入価格は平均で$16.1/100 万 BTU（MMBtu）であったが、変動幅はおよそ$15-17/MMBtu の推移となった。輸入総量は微増にとどまったが、円安によって邦貨換算の LNG 輸入額は前年比で 18%（＋1 兆 551 億円）増加した。これはマクロ経済や国富流出の観点から深刻な問題である。
2. 日本の平均 LNG 輸入価格は、原油価格（2014 年：$110/bbl、2015 年：$105/bbl、報告 1「国際石油情勢の展望」参照）連動が引き続き主流であることを前提とし、日本の平均 LNG 輸入価格は 2014 年：$16/MMBtu 前後、2015 年：$15/MMBtu 前後と予測する。原油連動価格における目下最大のリスク要因であるイラク情勢が注目される。なお、スポット LNG 価格については、世界全体では短期的に十分な供給が見込めることから原油連動による長期契約価格よりも弱含むと想定する。
3. 米国のヘンリーハブ価格は、2015 年にかけて$4-5/MMBtu 程度の安値圏を維持すると予測する。イギリスの NBP 価格は、足元では 2010 年以来となる安値にあるが、冬の需要期には若干値を戻す可能性がある。欧米市場の需給が比較的軟調に推移し、かつ原油価格が高値を維持するという見通しのなかでは、2015 年にかけても、日本を含むアジア向け LNG 価格の割高（プレミアム）問題は課題として残り続ける。プレミアムの解消には、アジア市場の価格形成の合理化と LNG 取引の流動性向上が必要であり、継続的な取組みが求められる。

2015 年までの天然ガス情勢

4. 世界の需給
   - 4.1. 緩やかながらも、世界全体では 2015 年にかけて需要の増加が続くとみられる。2014 年は、欧州の需要は引き続き弱含むと見られるものの、その他の地域における需要増加が貢献し、2013 年の 2 億 3700 万トンから 2%増の 2 億 4,200 万トンになると予測。2015 年は、欧州の若干の持ち直しを含めて世界全体では需要が増加し、2 億 5,500 万トン（2013 年比 7%増）と予測する。
   - 4.2. 供給面では、エジプトやアンゴラでは輸出の停止や大幅減少が続くものの、2013 年以降に稼働を開始したアルジェリアとパプアニューギニアに加え、2015 年にかけてはインドネシア（Donggi Senoro）や豪州（QC LNG、Gorgon）で複数の新規 LNG プロジェクトの追加が計画されている。これらを踏まえれば、予測される需要の増加に対して十分な供給力が確保可能と予測する。

5. 地域情勢

5.1. 米国では、非在来型天然ガスの増産によって引き続き十分な供給が存在し続ける。エネルギー省による輸出許可に加え、連邦エネルギー規制委員会による建設許可も下され（2014 年 6 月末時点で 2 件、計年間約 3,000 万トン）、LNG 輸出の実現に向けた動きも進展している。ただし、米国市場は特に発電用需要の価格感応度が高く、石炭価格との競合関係が将来の需要に影響を与える。

5.2. 欧州の天然ガス需要は、2013 年は前年比 1%減となり、2011 年から 3 年連続で減少した。発電における天然ガスの競争力低下が深刻で、例えばドイツでは、卸電力価格がガス火力では利益の出ない水準に落ち込んでいる。また例えばスペインでは、再生可能エネルギーの大量導入によってガス火力の稼働率が低下している。これらの要因は 2015 年にかけても解消されず、引き続き天然ガス需要を下押しする圧力になる。

5.3. 度重なるウクライナを巡るガス供給問題の発生によって、欧州はロシア依存度抑制に向けた政策意思を強化させている。2014 年 6 月にロシアはウクライナ向けガス供給を停止したが（2013 年の露ウ天然ガス貿易量は LNG 換算約 1,850 万トン）、現時点では市場に動揺はみられない。供給停止の終了時期を予測するのは困難だが、仮に冬の暖房需要期まで継続したとしても、ウクライナや東欧の天然ガス供給に対する影響は大きいものの、西欧市場の価格上昇や LNG 需要の増加、すなわち日本への影響は限定的であると予想する。ただし、供給支障発生に際の、欧州における追加的 LNG 需要発生の可能性などの動向には留意する必要がある。

5.4. 中国では天然ガスの需給ギャップが急速に拡大しており、2013 年の純輸入量は前年比で 54 億 m^3（LNG 換算約 400 万トン）増加した。公害対策を強力に進めるなかで、2015 年にかけても急速な需要拡大が続くとみられる。2014 年 5 月に中露間で締結した天然ガス供給契約は、中国の将来の需給ギャップ緩和に役立つばかりでなく、ロシアが進める東シベリア開発の促進といった点でも有意義である。これらは間接的に日本に対しても利益をもたらすものであり、歓迎すべきである。また、欧州並みと言われている契約価格が今後のアジア LNG 市場における契約交渉等に与える影響も注目される。

6. スポット、短期取引

LNG のスポットや短期契約取引量は引き続き拡大している。2013 年の世界全体のスポット LNG 取引量は 361 カーゴ（標準船換算約 2,350 万トン）と、昨年の取引量（298 カーゴ）を上回った。柔軟な供給が増加することにより、LNG 取引の流動性が向上することが期待出来る。一方、日本は原子力停止に伴ってスポット取引・短期契約取引を拡大し世界で重要な位置を占めるに至ったが、原発の再稼働情勢が今後の取引量に大きな影響を与える。仮に大規模な原発再稼働が実現した場合は、LNG 需給の緩和によって、スポット LNG の価格が現在よりもさらに低下する可能性も否定できない（2014 年 6 月末時点の北東アジア向けスポット LNG 価格は、約$12/MMBtu）。

以上